

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 3 年目)

1. 研究課題

人文情報学の基礎研究

Fundamental Topics in Digital Humanities

2. 研究代表者氏名

ウィッテルン, クリスティアン

Christian Wittern

3. 研究期間

2013 年 04 月 - 2016 年 03 月 (3 年度目)

4. 研究目的

人文情報学（欧米では最近 **Digital Humanities** だ）というのは、ここで特に人文科学諸分野に於ける文献学を基礎分野として、成立中の新しい研究領域とする。対象となるのは人文科学に於けるデジタル資料のあり方、その資料に対しての方法論や研究手段等々。本共同研究班では特にデジタル・テキストの規格、取り扱い方、処理、研究方法などについての基礎的な研究行う予定である。この数十年以来、多くの漢籍や古典はデジタル化されていることによって、東方学や中国に関するすべての研究が大きく変わった。研究者が現在直面している問題はもはや資料の乏しい状況よりは、大量のデータのなかに精密と正確に今の課題に必要とする情報を絞っていけるか、さらに、長期的に使える研究の記録、研究者コミュニティでの共有、などはどう行うか。本共同研究班は文献研究が行う人文科学の諸分野、特に東方学の研究、つまり古典の校正、解読、注釈、翻訳等を支援する方法や規格を提唱して、さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指している。そのツールの具体的な機能等は班員の関心や研究進行と共に明らかになるだろうが、現時点では文字としてのテキストと画像テキストの連携、複数のバージョンの扱い、テキスト批判、引用文や逸文の検出、語彙や実例の検討、テキストマイニング、テーマ・ジャンルなどでの絞り検索などが考えられる。研究者の需要を再検討して、テキスト研究に必要な道具で 21 世紀の人文科学研究の基盤を強化することは本研究の最大の目的だ。

Digital Humanities has become a hot topic in recent years as a catch-all designation for research in the Humanities that somehow employs digital data or methods. This research project takes a rather different approach, as it attempts to apply methods developed in philological and textual studies to texts transformed into the digital realm,

and thus to create a firm basis for the support of traditional research in the fields of East-Asian Studies using the methods of the 21 century. The current work focuses on protocols and infrastructure for a shared repository of pre-modern texts and research material.

5. 本年度の研究実施状況

本共同研究班(2013.4-2016.3)は文献研究が行う人文科学の諸分野、特に東方学 の研究、つまり古典の校正、解読、注釈、翻訳等を支援する方法や規格を提唱 して、さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指している。その ツールの具体的な機能等は研究進行と共に明らかになるだろうが、現時点では 文字としてのテキストと画像テキストの連携、複数のバージョンの扱い、テキスト批判、引用文や逸文の検出、語彙や実例の検討、テキストマイニング、テーマ・ ジャンルなどでの絞り検索などが考えられる。

研究者の需要を再検討して、テキスト研究に必要な道具で 21 世紀の人文学研究の基盤を強化することは本 研究の最大の目的だ。今年度は漢籍リポジトリの公開に向けて準備を進めてきた、秋から約 9000 種の漢籍が実験的に公開して、ウェブ(<http://www.kanripo.org>)とマンドク(<http://www.mandoku.org>)で使用可能になった。3 月 19 日に一般公開を予定している。

7. 本年度の研究実施内容

- 2015-04-28 第二十七回 現状報告と今年度の計画
- 2015-05-12 第二十八回 新しいサーバーとデータの構築
- 2015-05-26 第二十九回 構築中の漢リポサーバに追加された機能について
- 2015-06-23 第三十回 Windows 用の zip パッケージを更新について
- 2015-07-14 第三十一回 DH2015 の参加報告
- 2015-10-13 第三十二回 ウェブサイトの新たに構築した GitHub との連携
- 2015-10-27 第三十三回 www.kanripo.org の新しい機能紹介
- 2015-11-24 第三十四回 Windows 用の zip パッケージの更新について
- 2015-12-08 第三十五回 報告書の検討(1)
- 2016-01-12 第三十六回 報告書第二章「漢籍リポジトリの情報源と編成」の検討
- 2016-01-26 第三十七回 報告書第三章「漢籍リポジトリの使い方」の検討
- 2016-02-09 第三十八回 報告書第四章「漢籍リポジトリの使用例」の検討

8. 共同研究会に関連した公表実績

Wittern, Christian: 「Multiple Views and Modes of Engagement with a Repository of Digital Texts」, Digital Humanities 2015 (2015 年 7 月)、
http://dh2015.org/abstracts/xml/WITTERN_Christian_Multiple_Views_and_Modes_of_

Eng/WITTERN_Christian_Multiple_Views_and_Modes_of_Engagemen.html

講演会：「漢籍リポジトリの特徴と可能性」（場所：人文研本館 4F 大会議、2016年3月19日(土) 15時）ウィッテルン・クリスティアン（編）：センター研究年報 2015 特集 漢籍リポジトリ（2016年3月）

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	5 (1)	3						
学内(法人内)	1	2							
国立大学	1	2							
公立大学	1	1							
私立大学	1	2							
大学共同利用機関法人									
独立行政法人等公的研究機関									
民間機関									
外国機関									
その他									
計	5	12 (1)	3						

※（ ）内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	6 (4)
国際学術誌に掲載された論文数	0

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

13. 次年度の研究実施計画

最終年度には「漢籍リポジトリ」と「マンドク」の一般公開に向けての最終段階の準備に取り組む予定です。そのためには先ず文献学的な根拠を明確して、そしてその基本モデルに基づいての実装をわかりやすい解説の文章をまとめて刊行したいと思います。そのためにも年間を通して研究会での方法論的など実装についての技術的な議論を続けて、採用予定の漢籍の目録を確定してそして実例としては先ず道教関係の漢籍と仏典をまとめて、公開する。マンドクの Mac 版と Windows 版をそれぞれの初公開版の段階の機能を確定して、

開発を経て内部テストを実設して、そしてやがて年度末をめどに一般公開する。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 12 回 国内出張旅費 (延べ 75 人)	支出予定額 (200,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費 (延べ 人)	支出予定額 ()
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費 (延べ 1 人)	支出予定額 (250,000 円)
	招聘旅費	招待人数 (延べ 人)	支出予定額 ()
謝金 (講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (100,000 円)
消耗品等経費		資料代 パソコン関係消耗品	支出予定額 (50,000 円)
その他			支出予定額 ()
合計			600,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

この研究班の研究成果は三つに分けられます：

- (1) 議論に基づいた開発したアプリケーション(上記のマンドクとカンリポ)
- (2) 漢籍リポジトリで公開する文献と資料
- (3) 研究方法等に関する口頭発表と論文

(1)については「マンドク」のレビューパッケージを二回作成しました、漢籍リポジトリに関してもレビューの準備が始まった、一部は既に実行を初めました。

(2)については資料準備の段階に入りまして、班員の要望に応じて先ず仏典と道教関連資料から手をつける。

(3)に関しては班長は二回国際研究集会で口頭発表が行った。 7. 共同研究会に関連した公表実績 (出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など) 議論の進展は随時ウェブ公開となっています(<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~wittern/kkh/dhbasic/>を参照。)、またマンドクは <http://www.mandoku.org>、漢リポは <http://kanripo.github.io> それぞれ公開予定です。